社会福祉法人
熊本いのちの電話
KUMAMOTO INOCHINODENWA
通信 79号［事業報告］ 令和6年 夏号

# 第20回 九州・沖縄地区 いのちの電話相談員
# ワークショップ熊本大会開催報告

九州・沖縄のいのちの電話相談員が集い、学びを深めるワークショップを6月22日～23日にくまもと県民交流館パレアにて開催しました。熊本でのワークショップは今回が3回目です。大会のテーマを「こころの調律～ゆるめる　ととのう　ひびきあう～」としました。

九州・沖縄各地から215名の相談員達が、日々の相談活動をよりよいものとするための学びに熱心に取り組みました。開会式では理事長代理として赤星敦事務局長が開催地挨拶を行いました。サプライズが用意されていて、紺野美沙子さんがスクリーンに映し出されると会場からは歓声が起こりました。今大会のためだけにビデオメッセージを送ってくださった紺野さんには改めて感謝申し上げます。

開会式に続き、勝又陽太郎氏の基調講演があり、2時間という時間が短く感じるほどに会場の全員が熱心に聞き入っていました。

基調講演後は、参加者が事前に希望した4つの分科会に分かれ、各方面のご専門の講師から最新の情報が語られ、相談員としての学びを深める貴重な時間となりました。

また、各分科会の参加者代表から発表があり、全員での共有も出来、とても充実した全体会を行うことが出来ました。閉会式では2年後開催の大分センターよりご挨拶があり、次回への期待も高まり、最後に池田幸藏研修委員長の挨拶をもって閉会となりました。

2日間、いのちの電話の相談員同士が、肩を並べ学ぶ時間を持つことが出来たことは、とても有意義な時間であり、よりよい電話相談への深い学びの機会となりました。

九州・沖縄各県から今大会にご来場頂きましたこと、深く感謝いたします。

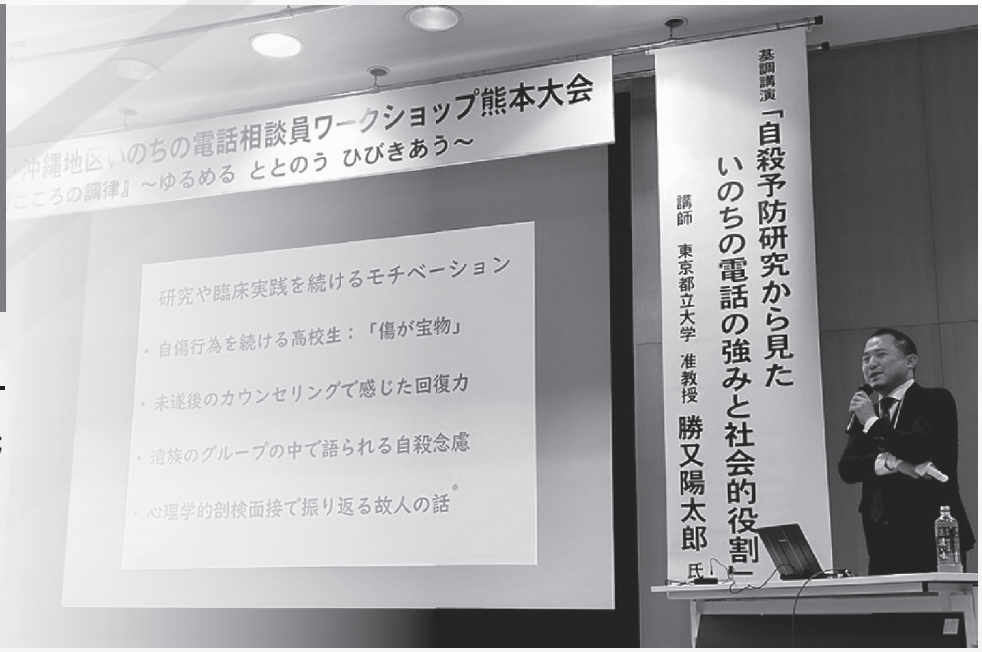
**通信79号　目次**

巻頭言 …… P1
基調講演 …… P2
分科会 …… P3
開講式・認定式 …… P5
相談状況 …… P6
事業報告 …… P8
決算・予算報告 …… P10
感謝報告 …… P11
お知らせ …… 巻末

熊本いのちの電話
ホームページ

テーマ

# 自殺予防研究から見た いのちの電話の強みと社会的役割




講師

**勝又　陽太郎** 氏

東京都立大学　人文社会学部
人間社会学科　心理学教室
准教授

## 基調講演 参加者報告

20年を超える自殺研究を通して、自殺予防研究の観点から見た、いのちの電話の活動の強みや社会的な役割について語られた。

講師は自殺の対人関係理論において、孤独感や疎外感を感じること（所属感の減弱）や自分は他人から見てお荷物ではないかといった対人関係上の問題が、自殺のリスクを高める重要な要因として認識されているとした。ゆえに、人々の間に情緒的なつながりを作り、孤独感を和らげることが自殺予防活動で優先的に取り組むべき課題であると説明された。

いのちの電話は「非専門家による無償の電話相談」という伝統的な電話相談形態であるが、その介入効果は、希死念慮のある電話発信者を助けるのに、「専門家による有償の電話相談」と比べて優れているとの報告がなされているという。そうした効果は相談員の相談経験や訓練によって支えられていることは間違いないが、いのちの電話の本質は、「かけ手との関係づくり」にあると講師は分析している。関係づくりを重視した態度・姿勢・行動こそが自殺予防に寄与していると言う。しかし、関係づくりに重点を置くことは相談員とかけ手との距離が近づき、相談員が情緒的に巻き込まれるリスクが高まり、また、無料かつ短時間での関係づくりに重点を置くことは、関係を求めるかけ手にとってメリットが大きく、リピーター化しやすくなるという側面も併せ持っていると指摘した。こうした相談システムは他の「相談サービス」とは一線を画すものであり、専門的な相談資源からは批判を受けることもあるかもしれないが、いのちの電話は、匿名性や一回性などの原則の導入で相談員を守る仕組みを導入しており、リピーターの存在を一定程度許容する形で相談活動を継続するシステムが確立している。リピーターの存在を認め、関係作りの場として「いのちの電話」をある種の「コミュニティ」として捉えるならば、その役割はこれまでと少し違って見えるという。自殺対策において相談サービスはその重要性や必然性から外部委託や相談の有料化の道を進むことになると予測される。しかし、それは簡単に準備ができる環境ではない。そういった意味で、いのちの電話の活動が非常に重要な役割を担っていくと締め括られた。

【T・K】

## 分科会 A

国立病院機構熊本医療センター
精神救急医療センター長　**橋本　聡** 氏

**演題**

### 自殺危機にある方を対応する際の注意点

救急病院で精神科医師として働く中で、危機介入チームとして標準化している内容、要点だと感じる部分、患者のその後を示し、活動の役に立ててもらいたい。

**参加者報告**

自傷行為で勤務する病院へ運び込まれる患者の多さに、橋本氏は"ここには精神科医がおらんといかんなぁ～"との思いが長年従事している理由と語られた。

相手を敬い、ストーリーを受けとめ、内省に目を向ける。共感的理解を言葉で返すことで本人自身の呟くようなフレーズを引き出し、何があったのか受け止めていく。完璧な共感より、熟慮に付きあい、気持ちのズレがあれば修正し問い直すことが大事と話された。

自殺企図者との関わり方について、誰かと語ることで思考が整理され、自殺企図への移行防止ができる。自殺念慮の解消ではなく、念慮に留まらせることが予防に繋がる。

会場からの自殺念慮を尋ねることへの不安の声には「死にたいと思っていますか?」との問いはとても重要で「死にたいほど辛い経験があったんですね」と避けずに聴き"何があったの?"に繋げていくことが自殺したい気持ちを和らげると語られた。

相手の「当たり前」を不思議に思うことで気付きにつなげ、企図に繋がる問題をみつける、その瞬間を見逃さないのが傾聴のダイナミズムと表現された。

講師の飄々と話す奥底には相手を幸せにしたいというブレない思いの強さを感じた。一人のサポーターとして、のびのびと清々しく生きよう、という姿勢に、私も電話の向こうの掛け手と繋がり、標準化した対応の一助となるべく、思いを新たにする機会を頂きました。心より感謝申し上げます。【F・K】

## 分科会 B

熊本市立出水南中学校校長　**田中　慎一朗** 氏

**演題**

### インターネット世界に SOS を出す子どもの理解と対応 ～公立中学校での SOS を受け止める取り組みを通して～

身近な人に頼らずインターネット世界に助けを求める子供たち、目に見える問題行動ではなく、問題「提起」行動をSOSと捉え、参加者全員で子供に頼られる大人や社会について考えたい。

**参加者報告**

数年前に日本の子供の死因一位は自殺と知ったとき、とてもショックを受けました。子供たちの感じている世界を知り、自分にできることを考えたく、田中慎一朗先生の講演を希望しました。

子供たちはインターネットに依存しつつ傷つけられてもいます。彼らがネットに依存する原因は、日常での雑談が減ったこと。家庭の中で、子供たちは監視されながらも関心を持たれていないと感じています。身近な大人をあきらめてSOSを出せなくなっています。

田中先生はコロナ禍の休校の際、先生1人と約1000人の全校生徒をネット上で結び、匿名で相談と回答を行う「帯中はうす」というシステムを作られました。内容によっては子供たちも回答することができ、年間3000件も利用されています。子供同士も支え合い、ピアサポート化し、"自分も誰かの力になれている"という自信となり、「一人ではない!仲間がいる」と感じられる"ほっとステーション"のような場所となっています。安全で適切な受け皿があると、子供たちがSOSを出せることが確認されました。

私は「帯中はうす」で子供たちが成長していることにとても感動しました。そして子供たちに関心を持ち、時間をかけて向き合い、雑談という会話をすることで信頼関係を結ぶ大切さを学びました。信頼できてこそ、子供たちから相談が生まれてきます。私たち大人の、一人一人の意識が向上すれば、子供たちの未来を明るく幸せにすることができると確信しています。
ありがとうございました。【T・R】

## 分科会 C

九州看護福祉大学　看護福祉部
社会福祉学科　専任講師　**水間　宗幸** 氏

### 演題
## 発達障害の理解

発達障害の特性を理解し、彼らの困難さを少しでも感じられるようになること、行動分析の入門の初歩を体験し、彼らの努力しているところを見つけ、言語化する記述を学ぶ機会としたい。

### 参加者報告

当事者からの「いのちの電話」への注文から始まった。発達障がいは先天的なもので、育て方や環境の問題ではない、多くは幼少期に発見されるが、大人になり二次障害と呼ばれるうつや摂食障がいなどの治療から診断に至る事もある。特に女性は見つかりにくいが、本人は違和感を持って助けを求めている。
この苦しさの正体は何？この先どうすれば良いのか、細かく、具体的なアドバイスを欲しいと思っている方にどう対応したら良いのか、発達障がいを知ることが大切だと感じた。

脳に脆弱性が指摘され、ストレスに耐性が低いために二次障害になりやすい。自閉スペクトラムのスペクトラムとは連続体という意味で薄い～濃いがあると聞き、特別ではなく自分のいる所とつながった所にいる方達だと解った。

発達障がい者はカウンセリング（受容と共感を中心とした一般的なもの）は場合によっては精神症状を悪化させる等、しっかり学んでおかないと、対応が逆効果になる事もある。2日目の行動分析、認知行動療法、ペアレントプログラムのワークショップがとても興味深かった。私にも苦手はある。知る事で少しでも生きやすくなる人が増えると、小さな所から何かが良くなれば・・・と感じた2日間だった。最後に先生が伝えられた「"ギリギリセーフ"で良いんですよ」という言葉がとても優しくて心に残った。【K・T】

## 分科会 D

熊本県立こころの医療センター
精神保健福祉士　社会福祉士　**常増　健二** 氏
公認心理士　臨床心理士　**中村　晶子** 氏
精神科医師　**樋口　ゆき** 氏

### 演題
## ひきこもりと精神障がい、その対応について学ぶ

ひきこもりに関連する精神疾患の病態像や治療、支援の道筋を医学的に解説したうえで、支援者としての基本的なコミュニケーションについて理解を深めてもらいたい。

### 参加者報告

「引きこもり」とは、社会的参加を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたり、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指し、原因は様々で、病気や仕事、学業でのつまずきもきっかけで多いとの事。又引きこもりの中には、精神疾患と何らかの関係があるとも考えられ、ひきこもりをいくら脱しようと頑張っても、根本にある精神疾患の治療や支援をしないと解決できないという事を学ぶことができた。引きこもり状態の裏に精神疾患が隠れていないか、注視すべき点である。

ひきこもりは推定146万人、約50人に1人、ひきこもり状態になる年齢は、中高年が多く、高齢化していて、女性の増加も顕著。8050問題から9060問題と事態は深刻化していることが印象的であった。支援に繋がるには平均4、5年がかかり、経路としてはほぼ家庭からで、72%以上との現状を知ることができた。

2日目はひきこもりの社会情勢について。ひきこもりは日本特有の課題であり、今後の対策、支援が注目されている。対策として、コミュニケーションを少し工夫することで効果が得られることも学びました。

如何に相談者のこえ（背景）を傾聴できるであろうか、またその困難さ、重要性を改めて確認した分科会でした。
感謝!!【T・T】

# 第41期生電話相談員養成講座が始まりました

5月7日熊本YMCAに於いて、熊本いのちの電話相談員養成講座の前期開講式が開催されました。今年度は39名（男性6名、女性33名）と多数の志あふれる受講生の参加がありました。募集に際し、各自治体・ラジオ・テレビ・新聞広告など、多くのご協力を頂きました。そのお陰もあり、会場のYMCAジェーンズホールは満席でのスタートとなりました。

先ずは受講生の紹介があり、お一人ずつ名前が呼ばれました。これから回を重ねる毎に、同期の顔と名前が一致して、絆を深めていくことでしょう。

福田理事長挨拶では、自殺数は減少していると前置きしつつ、産婦人科医のお立場から妊産婦の痛ましい自殺の現状に触れました。自殺予防の一端を担うことになる受講生へ「大変なこともあるだろうけど、続けて頂きたい。」とエールを送られました。

池田研修委員長からも「研修委員は皆さんの成長をお手伝いするのが役目です。長いお付き合いをお願いしたい」と継続を期待する挨拶がありました。また、受講するにあたっての諸連絡が赤星事務局長からありました。

開講式に続き、いのちの電話連盟制作のDVDを２本視聴した後、早速前期講座第一回目、池田研修委員長による「いのちの電話の歴史と現状」の講座がありました。皆さん真剣に耳を傾け、質問がありますか?の声に次々と手が挙がり、41期生の熱意が早速感じられました。

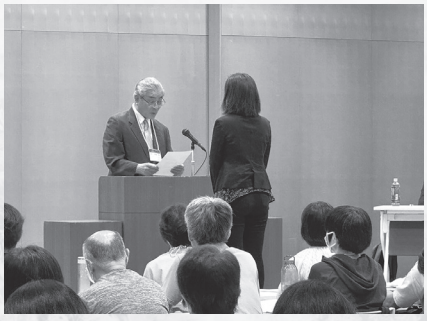
中身の濃い第一回目に、緊張と疲れもあったかと思いますが、終了した時には、ホッとした表情で近くの方と談笑したり、和やかな雰囲気で会場を後にしていました。

講座への参加を重ね、いずれ頼もしい相談員になられることを期待しています。

# 第39回開局記念会・第39期生電話相談員認定式

6月22日（土）くまもと県民交流館パレアにて、89名の相談員が参加し、熊本いのちの電話第39回開局記念会と第39期生相談員の認定式が行われました。記念会は理事長代理として赤星事務局長の挨拶から始まりました。39期生に向けて「全国約6000名の相談員の仲間入りです。末永く活躍されることを願っています」との祝辞がありました。池田研修委員長からもお祝いと労い、そして「午後から行われる九州ワークショップ熊本大会で研鑽・交流の機会を持って、一人でも友だちを作ってほしい」とのお話がありました。

続く認定式では、2年にわたる研修期間を無事終えた39期生16名が、お一人ずつ名前を呼ばれて紹介され、事務局長から認定証が手渡されました。39期生代表からは、「研修生として様々な経験を積むことができた。自殺予防に貢献できることを誇りに思う。よりよい電話相談員に成長できるよう努めてまいります。」との挨拶がありました。先立って相談員会総会で承認された令和6年度の新相談員会会長からは「みなさんが、相談員を目指した理由は様々だと思う。自分は誰かのために役に立ちたいという思いから、一字一句逃さないような学びをしてきた。同じ志を持つ仲間と学ぶのは楽しかった。仲間たちと充実した活動を楽しむことによって、末永く相談員として活躍されることを祈念しています。」との祝辞がありました。



あいにくの雨でしたが、晴れ晴れとした39期の表情には、長い研修期間を終え、認定を受けた安心と、これから悩める方々へ一層寄り添っていこうという力強い眼差しを感じました。

頼もしい仲間が増えたことを、熊本いのちの電話は心から嬉しく思います。

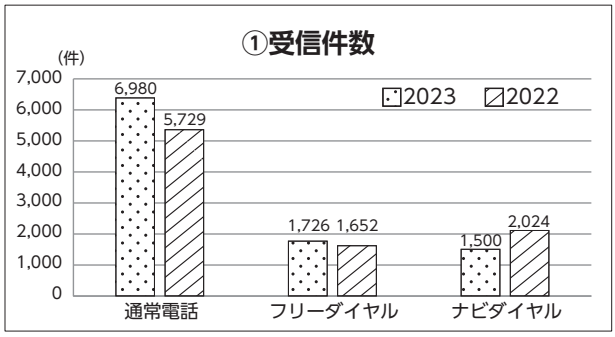
# 2023年
# 熊本いのちの電話の相談状況

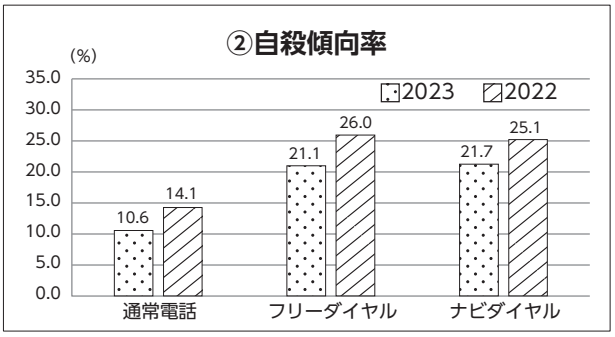
## 1.概況

2023年度に熊本いのちの電話で受信した相談件数は10,206件で2022年度に比べ801件増加した。
男女別の相談件数は男性が5,830件、女性が4,327件で男性からの相談が多い。
そのうち自殺傾向件数及び自殺傾向率は男女ともに前年度に比べ減少しているが原因は不明。
前年度からLGBTQ＋をその他として分類をはじめたが件数が少ないため男女別分類グラフ等では掲載を省いている。

| かけ手 | 相談件数 | | | | 自殺傾向件数(再計) | | | 自殺傾向率(%) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2023年 | 2022年 | 増減数 | 増減率(%) | 2023年 | 2022年 | 増減率(%) | 2023年 | 2022年 | 増減率(%) |
| 合　計 | 10,206 | 9,405 | 801 | 8.5 | 1,428 | 1,743 | －18.1 | 14.0 | 18.5 | －4.5 |
| 男　性 | 5,830 | 5,222 | 608 | 11.6 | 740 | 928 | －20.3 | 12.7 | 17.8 | －5.1 |
| 女　性 | 4,327 | 4,178 | 149 | 3.6 | 685 | 814 | －15.9 | 15.8 | 19.5 | －3.7 |
| その他 | 49 | 5 | 44 | 980 | 3 | 1 | 200 | 6.1 | 20.0 | －13.9 |

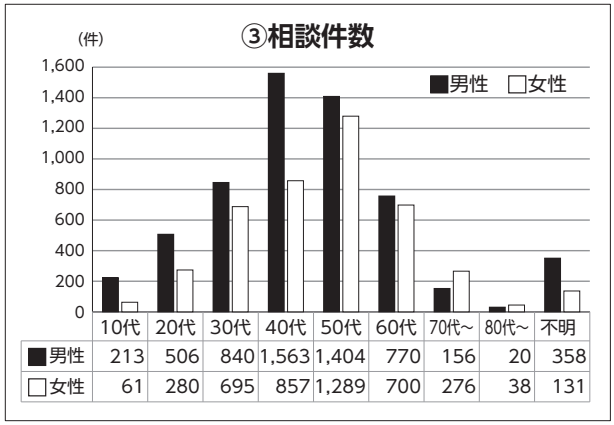
## 2.受信回線別状況



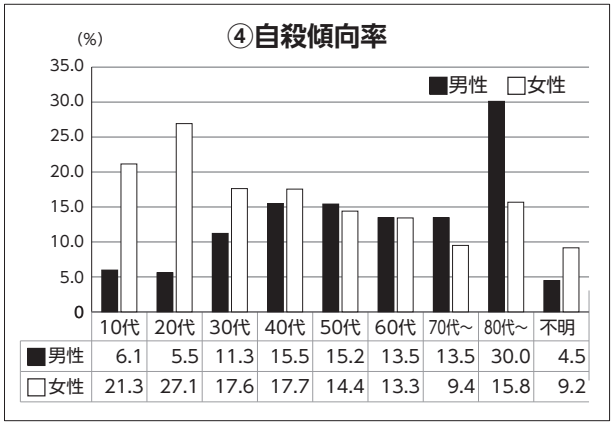




回線別の受信件数は通常電話、フリーダイヤルは前年度に比べ増加したがナビダイヤルは減少した。原因は不明。
自殺傾向率はどの回線も減少している。フリーダイヤルとナビダイヤルの順位が僅差であるが逆転した。

## 3.年代･男女別相談状況




| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～ | 80代～ | 不明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■男性 | 213 | 506 | 840 | 1,563 | 1,404 | 770 | 156 | 20 | 358 |
| □女性 | 61 | 280 | 695 | 857 | 1,289 | 700 | 276 | 38 | 131 |

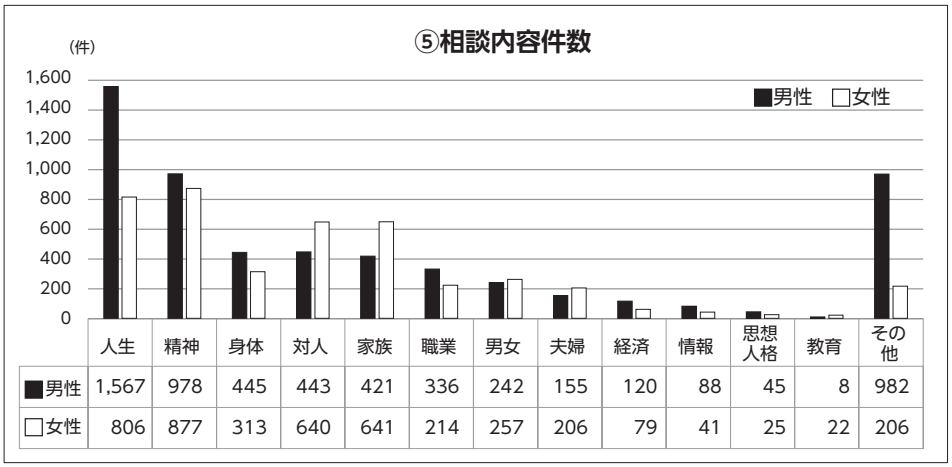



| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～ | 80代～ | 不明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■男性 | 6.1 | 5.5 | 11.3 | 15.5 | 15.2 | 13.5 | 13.5 | 30.0 | 4.5 |
| □女性 | 21.3 | 27.1 | 17.6 | 17.7 | 14.4 | 13.3 | 9.4 | 15.8 | 9.2 |

相談件数は10代、20代及び70代以上は他の年代に比べ少なく、40代、50代が多い。

自殺傾向率は男性は年代とともに増加傾向があり、40代以上はフラットになっている。女性は10代、20代が高く、年代とともに減少傾向がある。

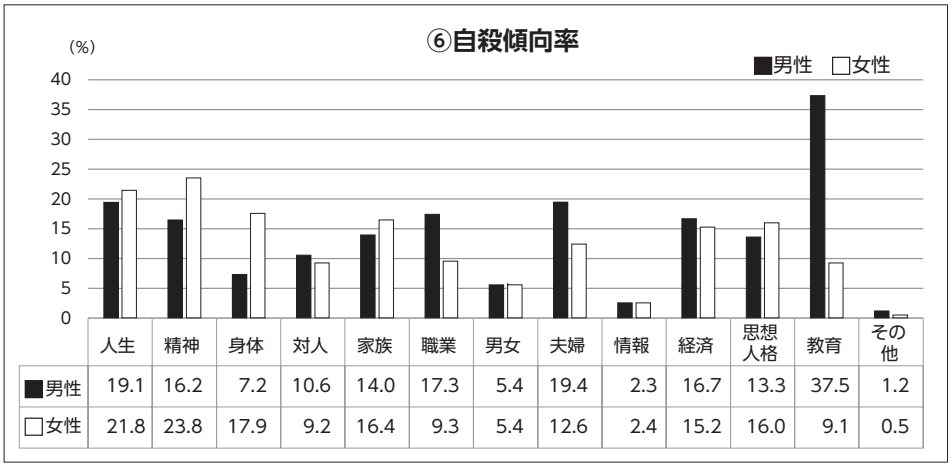
## 4. 相談内容の男女別件数




| | 人生 | 精神 | 身体 | 対人 | 家族 | 職業 | 男女 | 夫婦 | 経済 | 情報 | 思想人格 | 教育 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■男性 | 1,567 | 978 | 445 | 443 | 421 | 336 | 242 | 155 | 120 | 88 | 45 | 8 | 982 |
| □女性 | 806 | 877 | 313 | 640 | 641 | 214 | 257 | 206 | 79 | 41 | 25 | 22 | 206 |

男性の相談内容別件数の多い順に並べたもので、女性の順とは少し異なっている。
男性は人生、精神、身体が多く、女性は精神、人生、家族、対人の順になっている。

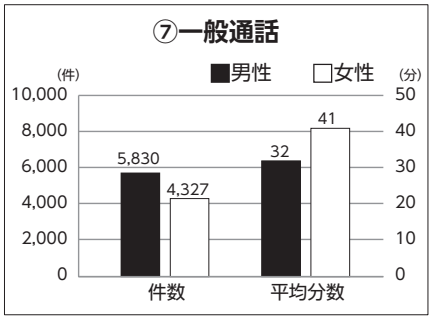
## 5. 相談内容の自殺傾向率

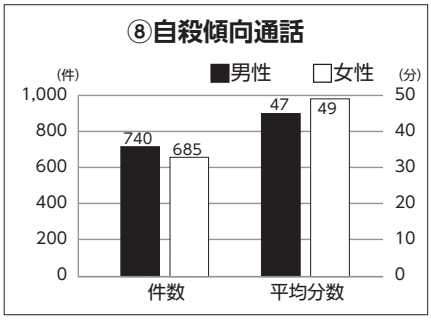



| | 人生 | 精神 | 身体 | 対人 | 家族 | 職業 | 男女 | 夫婦 | 情報 | 経済 | 思想人格 | 教育 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■男性 | 19.1 | 16.2 | 7.2 | 10.6 | 14.0 | 17.3 | 5.4 | 19.4 | 2.3 | 16.7 | 13.3 | 37.5 | 1.2 |
| □女性 | 21.8 | 23.8 | 17.9 | 9.2 | 16.4 | 9.3 | 5.4 | 12.6 | 2.4 | 15.2 | 16.0 | 9.1 | 0.5 |

⑤の件数と自殺傾向率の大きい順は異なっている。男性は夫婦、人生、経済、精神が大きい。教育は8件中3件と少ないので除外。女性は精神、人生、身体が大きい。
男女で差が大きいのは身体、職業、夫婦、精神。

## 6. 通話時間の比較




男性、女性ともに一般通話より自殺傾向通話時間の方がそれぞれ47%、20%長い傾向がある。
男性と女性を比べると一般通話、自殺傾向通話のそれぞれ28%、4%女性の方が長い傾向がある。
共通して言えることは一般通話より自殺傾向通話の方が長くなり、男性より女性の方が長い傾向がある。

## 7. インターネット相談

熊本いのちの電話では、現在6名の相談員がそれぞれ月に1件の相談を返信している。2023年1月から12月の全国の受信状況（返信済み）は、979件で、内訳は男性372件・女性575件・その他32件だった。2022年1,145件、2021年1,237件で相談件数は減少傾向にある。
年代別で見ると、30代～50代の利用が多く、2018年以降10代、20代からの受信件数が顕著に減少しているが、自殺傾向のある相談は36.8%と電話相談より高い割合となっている。

| 相談件数 979件 | 男性 372 | 女性 575 | その他 32 | 前年比 166減 |
|---|---|---|---|---|
| （うち自殺傾向 360件） | (123) | (215) | (22) | (86減) |

# 社会福祉法人 熊本いのちの電話

## 令和5年度(2023年度) 事 業 報 告

## 1. 電話相談活動

(1)熊本いのちの電話 (2023年4月～ 2023年3月)
　総受信件数　10,206件 (総受信時間　6,105時間)
　自殺傾向件数　1,426件 (自殺傾向率　14.0%)
(2)受信体制(令和５年度始)
　実稼働人数　114名、 (認定相談員 95名、39期研修生 19名)
　休務者数　　19名
(3)フリーダイヤル自殺予防いのちの電話(再掲)
　毎月10日　午前8時～24時間　　483件 (受信時間 222時間)
　毎日　　18時～21時　　1,243件 (受信時間 709時間)
(3)インターネット相談:
　熊本対応件数　44件､相談員6名

## 2. 研修活動

(1)第４０期　電話相談員養成基礎講座
　場所　熊本ＹＭＣＡ本館
　①開講式　令和5年5月9日　53名
　②前期 (基礎講座) 令和5年5月　9日～9月19日
　③後期 (養成講座) 令和5年9月26日～令和6年3月19日
(2)第３９期生　スーパービジョン(２年目研修)
　期間　令和5年4月～令和6年3月 (月2回電話当番担当、月1回SV)
　人数　19名 (男性2名、女性17名) 3班構成で実施
(3)継続研修(第１期生～第38期生)
　各曜日班 (13班編成) 毎月１回実施　95名
(4)全体研修
　①6月18日　熊本県総合福祉センター (DVD方式)
　　テーマ:「シナリオロールプレイで学ぶ」
　　～かけ手の内面を聴く聴き方～
　　担　当:池田 (菖)、藤谷、渡辺研修委員
　　参加者:86名
　②11月19日　熊本県総合福祉センター
　　テーマ:「対応困難事例への応答」
　　講　師:有田モト子氏
　　参加者:73名
(５)相談員会自主企画研修
　①社会資源探訪　令和5年10月17日
　　熊本県精神保健福祉センター　参加者37名
　②自主勉強会　　令和6年3月11日
　　熊本防災センター　参加者18名

## 3. 相談員募集活動

(1)第41期電話相談員養成講座受講生募集活動
　○熊本市政だよりはじめ、31市町村の広報誌に募集案内の掲載
　○ＴＶスポットＣＭ、ＦＭ放送出演、ミニコミ誌への掲載等
　○ホームページ、ＳＮＳ、マスコミ、事前説明会、公開講演会での周知活動
(2)第41期生電話相談員養成講座募集条件及び結果
　①募集計画人数　40名
　②応募条件　　20歳以上70歳以下
　③受講料　　前期10,000円、後期12,000円 (一泊研修費別)
　④応募者数　　42名 (70歳超の応募者、締切後の応募等含む)
　⑤受講者数　　39名 (開講時)

40期開講式

一泊研修

全体研修

社会資源探訪

事前説明会

## 4. 啓発活動

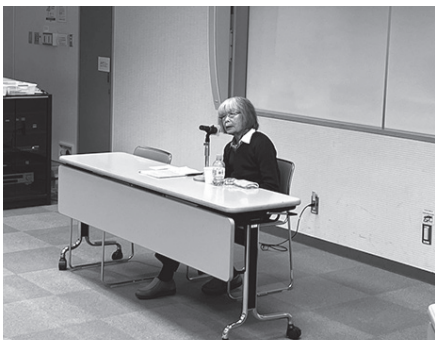
(1)第21回自殺予防公開講演会
・令和6年2月25日㈰　10：30～12：30
・ハイブリッド方式　メイン会場　熊本市民会館大会議室
参加者314名（会場110名　オンライン204名）
・テーマ「自殺予防の基礎知識」
・講師　精神科医　医学博士　高橋祥友氏

(2)SNS等オンライン情報の拡大･最新化
・2023年4月熊本いのちの電話公式Instagram開設
投稿数　31件　新規フォロワー68名
・公式facebookによる投稿　25件　新規フォロワー45名
・ホームページ情報の現行化　更新回数　24件

(3)広報誌発行
・春号・・・通信75号　　1,800部
・夏号・・・通信76号　　1,800部
・新年号・・通信77号　　1,600部

(4)第22回チャリティ公演
・8月21日㈪　14：00時開演
・会場　　くまもと森都心プラザホール
・来場者　294名
・テーマ　「ブラボー！結ボー！絆の輪」
・監修　　中村花誠
出演　舞踊団花童＆はつ喜/花喜楽/花と誠の会
熊本県吟剣詩舞道総連盟/山鹿こどもおこと教室
菊池女子高等学校（郷土芸能部）（着物着付け）（バトントワリング部）

(5)FM791　“ナビコレ！？”にゲスト出演　2月8日㈭
熊本いのちの電話の活動と養成講座受講生募集の広報


全体研修会（有田モト子氏）

第22回チャリティ公演

## 5. 運営資金確保活動

(1)資金サポート会員
賛助会員 282万円（令和4年度 226万円）
維持会員 287万円（令和4年度 294万円）

(2)募金式自動販売機
自販機収入額 132万円（令和4年度 116万円）

(3)イオングループの黄色いレシートによる募金
イオン熊本店（嘉島）　4万円（令和4年度4万円）

(4)共同募金（20万円）、善意銀行（6万円）

(5)ふるさとくまもと応援寄付金（55万円）

(6)チャリティ公演からの支援金（136万円）

ナビコレ！？出演

## 6. 各種会議等

(1)役員会
①第71回理事会
5月16日　くまもと県民交流館パレア 第3会議室
令和4年度事業報告、決算報告
②第54回評議員会
6月19日　くまもと県民交流館パレア 第3会議室
令和4年度事業報告、決算報告
③第72回理事会
6月19日　ＫＩＮＤ会館 3F
理事長の選任
④第73回理事会
令和6年3月22日　ＫＩＮＤ会館 4F
令和6年度事業計画、予算

(2)日本いのちの電話連盟
①定期社員総会　（ハイブリッド方式）
6月24日　令和5年度事業計画、予算
令和4年度事業報告、決算
②連盟主催事務局長会議（Ｗｅｂ方式）
7月8日　　当面の課題について
③連盟主催　統計システム委員会の開催
12月18日　リモート方式
受信カード項目のガイドラインの見直し

イオン熊本･
黄色いレシートギフト券授与式

評議員会

表1

## 資金収支計算書

令和5年度予算・決算　(自)令和5年4月1日　(至)令和6年3月31日
令和6年度予算　(自)令和6年4月1日　(至)令和7年3月31日

(単位:円)

| 勘定科目 | 令和5年度 | | | 令和6年度 |
|---|---|---|---|---|
| | 予算 | 決算 | 差異 | 予算 |
| 事業活動による収支 | | | | |
| 事業活動収入 | 15,598,540 | 16,042,787 | △444,247 | 13,036,500 |
| 事業活動支出 | 11,261,961 | 11,546,205 | △284,244 | 11,370,000 |
| 事業活動資金収支差額 | **4,336,579** | **4,496,582** | **△160,003** | **1,666,500** |
| 設備整備等による収支 | | | | |
| 設備整備等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 設備整備等支出 | 500,000 | 430,260 | 69,740 | 0 |
| 設備整備等資金収支差額 | **△500,000** | **△430,260** | **△69,740** | **0** |
| その他の活動による収支 | | | | |
| その他の活動収入 | 0 | 40,000 | △40,000 | 0 |
| その他の活動支出 | 1,396,000 | 1,396,052 | △52 | 1,400,000 |
| その他の活動資金収支差額 | **△1,396,000** | **△1,396,052** | **△39,948** | **△1,400,000** |
| 当期資金収支差額合計 | **2,440,579** | **2,710,270** | **△269,691** | **266,500** |
| 前期末資金残高 | 25,631,237 | 25,631,237 | 0 | 28,341,507 |
| 当期末支払資金残高 | **28,071,816** | **28,341,507** | **△269,691** | **28,608,007** |

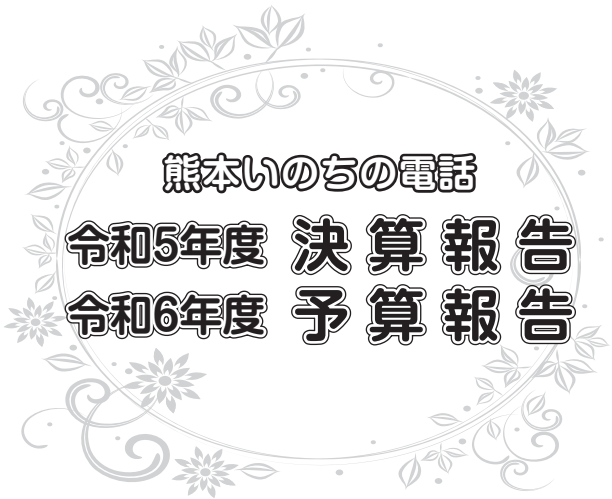
表2

## 事業活動計算書

(自)令和5年4月1日　(至)令和6年3月31日

(単位:円)

| 勘定科目 | | 令和5年度決算 | 令和4年度決算 |
|---|---|---|---|
| サービス活動収益 | 維持会費収益 | 2,871,673 | 2,941,580 |
| | 賛助会費収益 | 2,820,000 | 2,264,103 |
| | 講習受講料収益 | 1,099,000 | 868,700 |
| | 事業収益 | 1,363,954 | 804,519 |
| | 共同募金会収益 | 200,000 | 200,000 |
| | 善意銀行収益 | 60,000 | 60,000 |
| | 補助金収益 | 4,856,000 | 6,568,500 |
| | 雑収益 | 2,771,597 | 2,236,780 |
| | サービス活動収益計 | 16,042,224 | 15,944,182 |
| サービス活動費用 | 人件費 | 4,107,658 | 3,830,626 |
| | 事業費 | 3,659,570 | 4,841,069 |
| | 事務費 | 3,778,977 | 3,832,075 |
| | 減価償却費 | 1,449,585 | 1,582,059 |
| | 国庫補助金等特別積立金取崩額 | △638,110 | △796,810 |
| | サービス活動費用計 | 12,357,680 | 13,289,019 |
| サービス活動増減差額 | | **3,684,544** | **2,655,163** |
| 受取利息 | | 563 | 511 |
| 経常増減差額 | | **3,685,107** | **2,655,674** |
| 当期活動増減差額 | | **3,685,107** | **2,655,674** |
| 前期繰越活動増減差額 | | 29,823,892 | 27,168,218 |
| 当期末繰越活動増減差額 | | **33,508,999** | **29,823,892** |
| その他の積立金積立額 | | 1,000,000 | 0 |
| 次期繰越活動増減差額 | | **32,508,999** | **29,823,892** |




「令和6年度予算」(表1) は令和6年3月18日の理事会に於いて決定、「令和5年度決算」(表1、表2、表3) は令和6年6月18日の評議員会に於いて承認されました。

表3

## 貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位:円)

| 資産の部 | | | |
|---|---|---|---|
| | 当年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 流動資産 | **29,977,892** | **26,205,552** | **3,772,340** |
| 現金預金 | 24,897,262 | 25,851,082 | △953,820 |
| 前払費用 | 49,350 | 53,270 | △3,920 |
| 仮払金 | 175,280 | 101,200 | 74,080 |
| 未収補助金 | 4,856,000 | 200,000 | 4,656,000 |
| 固定資産 | **36,438,763** | **36,102,036** | **336,727** |
| 基本財産 | **20,364,000** | **20,760,000** | **△396,000** |
| 土地 | 7,000,000 | 7,000,000 | 0 |
| 建物 | 12,364,000 | 12,760,000 | △396,000 |
| 基本財産特定預金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| その他の固定資産 | **16,074,763** | **15,342,036** | **732,727** |
| 器具及び備品 | 2,804,511 | 3,423,436 | △618,925 |
| ソフトウェア | 79,200 | 138,600 | △59,400 |
| 敷金 | 55,000 | 40,000 | 15,000 |
| 建物減価償却引当特定預金 | 9,636,052 | 9,240,000 | 396,052 |
| 減価償却引当特定預金 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 |
| 土地取得費用積立資産 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| **資産の部合計** | **66,416,655** | **62,307,588** | **4,109,067** |

| 負債の部 | | | |
|---|---|---|---|
| | 当年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 流動負債 | **1,636,385** | **574,315** | **1,062,070** |
| 事業未払金 | 1,407,637 | 439,297 | 968,340 |
| 預り金 | 11,748 | 21,018 | △9,270 |
| 前受金 | 0 | 114,000 | △114,000 |
| 仮受金 | 217,000 | 0 | 217,000 |
| 固定負債 | 0 | 0 | 0 |
| **負債の部合計** | 1,636,385 | 574,315 | 1,062,070 |
| **純資産の部** | | | |
| 基本金 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 |
| 国庫補助金等特別積立金 | 1,271,271 | 1,909,381 | △638,110 |
| その他の積立金 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 土地取得費用積立金 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 次期繰越活動増減差額 | 32,508,999 | 29,823,892 | 2,685,107 |
| (うち当期活動増減差額) | (3,685,107) | (2,655,674) | 1,029,433 |
| **純資産の部合計** | 64,780,270 | 61,733,273 | 3,046,997 |
| **負債及び純資産の部合計** | **66,416,655** | **62,307,588** | **4,109,067** |

《脚注》減価償却費の累計額　20,905,365円

# 熊本いのちの電話　感謝報告

ご支援をいただきありがとうございました。

## 2024年3月1日～6月30日 までに確認出来た方

### 法人・団体の部

（敬称略・順不同）

| | | |
|---|---|---|
| ㈱上田商会 | 大熊本証券㈱ | 阿蘇医療センター　甲斐　豊 |
| ㈱NTF | 東亜シルク㈱ | 大知　田中　俊夫 |
| ㈱大橋時計店 | ㈲フットフィール | ㈱タケモト　武本　英博 |
| 熊本医療ガス㈱ | （宗）法光寺 | 千歳公認会計士事務所　千歳　睦男 |
| 熊本企業開発㈱ | ㈱ミスター・リースリー | 東京エレクトロン九州㈱＆従業員一同 |
| 熊本キワニスクラブ | 宮川・遠山法律事務所 | ㈱みどりや　東　静一 |
| 熊本善意銀行 | 山崎菅原神社 | 森本法律事務所　森本　耕司 |
| 熊本YMCA | YMCAチャリティゴルフ会 | 有斐総合法律事務所　井上　陽介 |
| 福）泗水福祉会 | | 匿名　1件 |

犬童富士子さま

熊本キワニスクラブさま

### 個人の部

（敬称略・順不同）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 藍澤　春美 | 岩永　研一 | 尾崎　元昭 | 郡山　和代 | 高濱　和夫 | 中村　賢一 | 本田　重寿 | 宮崎　文 | 和田　全浩 |
| 青木　悟 | 犬童富士子 | 小路島正臣 | 小澄　康彦 | 高松　和子 | 成松　眞 | 前原八寿之 | 宮部　一郎 | 渡辺　和文 |
| 赤星　敦 | 上田真由美 | 小山　照映 | 斉藤　登 | 高森　俊二 | 西川　通子 | 牧　勝美 | 米良　正彦 | |
| 秋吉　睦 | 上原　仁朗 | 柏尾　敬秀 | 境　正子 | 竹下　精一 | 野田　昭男 | 松岡　泰輔 | 持永瑞恵・魔子 | 匿名12名 |
| 浅野　智弘 | 内田　直美 | 金子　義勝 | 崎元　達郎 | 竹下　清 | 野田　和子 | 丸山　明 | 森崎賀久子 | |
| 有馬　修二 | 江崎　啓子 | 神谷　尚孝 | 佐藤　泰生 | 武田　哲夫 | 野田　幸孝 | 水谷　幸子 | 守屋　洋 | |
| 壱岐　憲司 | 悦　正治 | 北里美知子 | 繁田　高志 | 立和田　斉 | 野村　清人 | 溝口ハルエ | 横井　省吾 | |
| 伊藤勢津子 | 大井　和美 | 北村　慶子 | 柴野　泰 | 富田　豊喜 | 林　修子 | 溝田　武人 | 吉田　信介 | |
| 井上　新 | 大洞　一成 | 木村美由紀 | 城崎龍太郎 | 中村　孝彦 | 原　史章 | 光永　尚生 | 吉永　圭子 | |
| 猪本　燿子 | 小椋　敏勝 | 久保山嘉男 | 髙木　容子 | 中村　静代 | 平方　英子 | 三原　種昭 | 米澤　和彦 | |

このほか、切手、お茶、コーヒー、お菓子等のご提供がありました。心から感謝申し上げます。

## 募金式自販機寄付

### 募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

（敬称略・順不同）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ウェルフェアホームゆたか事業所 | 熊本学園大学 | (医)寿量会　熊本機能病院 | ハヤカワスポーツ |
| APパーク桜町 | 熊本県医師会館 | (福)愛隣会　春光苑 | ヒロ・デザイン専門学校 |
| おおつかの郷 | 熊本放送（RKK） | 崇城大学慶賓館 | (医)愛育会　福田病院 |
| 大津陣内メディケアセンター | 熊本保健科学大学 | 大東商事㈱ | 不二高圧コンクリート㈱ |
| 菊陽レディースクリニック | 熊本YMCA | 建吉観光土地㈱ | ホテルサン人吉 |
| 北熊本乗馬クラブ | 桑原クリニック | ㈱建吉組 | 松尾建設㈱ |
| 九州電機工業㈱ | KMバイオロジクス㈱ | (医)寺尾会　寺尾病院 | まつばせレディースクリニック |
| 九州中央リハビリテーション学院 | (医)孔子会　孔子の里 | (医)聖公会　中村整形外科 | 御船町 |
| 九州ルーテル学院高等学校 | 金剛㈱ | ㈱南星機械 | ㈱ミヤムラ |
| 九州ルーテル学院大学 | ㈱佐藤産業 | ㈱Denzai | 湯前町 |
| ㈱九電工 | ㈱SYSKEN | (特非）花織部 | (福)啓明会　苓山寮 |

サントリービバレッジサービス㈱、コカ・コーラボトラーズジャパン㈱の2社のご協力を頂き、自販機によるご寄付の仕組みを準備しております。
各自販機設置者様のご支援と上記2社のご協力に感謝申し上げます。

社会福祉法人 熊本いのちの電話

# 2024年度 役員名簿

令和６年度役員のご紹介です。

2024年(令和6年)6月1日現在

| 役　職 | 氏　名 | 勤務先･職業 |
|---|---|---|
| 理事長 | 福田　　稠 | 社会医療法人　愛育会　理事長 |
| 理　事 | 赤星　　敦 | 熊本いのちの電話　事務局長 |
| 理　事 | 後藤　秀昭 | 熊本いのちの電話　特命研修委員 |
| 理　事 | 池田　幸藏 | 不動産･損害保険 池田事務所代表／熊本いのちの電話 研修委員長 |
| 理　事 | 堤　　弘雄 | 一般社団法人夢ネットはちどり代表理事 |
| 理　事 | 浅野　智弘 | 宗教法人蓮台寺　浄土宗西山禅林寺派　僧侶 |
| 理　事 | 藤谷　裕子 | 熊本いのちの電話　副研修委員長／ピアノ教師 |
| 監　事 | 大村　　豊 | 大村豊法律事務所長　弁護士 |
| 監　事 | 中村　孝彦 | 元　中村孝彦税理士事務所長 |
| 評議員 | 出田　信行 | 大熊本証券(株)会長 |
| 評議員 | 井原　　宏 | 熊本トヨタ自動車(株)代表取締役社長 |
| 評議員 | 浦川　　務 | 大江、崎津、本渡カトリック教会 主任司祭 |

| 役　職 | 氏　名 | 勤務先･職業 |
|---|---|---|
| 評議員 | 悦　　正治 | 社会福祉法人　同胞友愛会　監事 |
| 評議員 | 大橋　善治 | (株)大橋時計店　代表取締役会長 |
| 評議員 | 光永　尚生 | 熊本YMCA総主事 |
| 評議員 | 藤瀬　　昇 | 熊本大学保健センター長　教授医学博士　(医師) |
| 評議員 | 福井　春菜 | アステル法律事務所　弁護士 |
| 評議員 | 荒木めぐみ | 元田社会保険労務士事務所所長／労働者福祉組合会長 |
| 評議員 | 吉村圭四郎 | 瑞鷹(株)　代表取締役副会長 |
| 評議員選任･解任委員 | 西嶋　公一 | オフィス･ムジカ |
| 評議員選任･解任委員 | 日野　充裕 | 学校法人　熊本YMCA学園　職員 |
| 評議員選任･解任委員 | 大村　　豊 | 大村豊法律事務所所長　弁護士 |
| 評議員選任･解任委員 | 池田　菖子 | 熊本いのちの電話　研修委員 |

## 編集後記

今年も暑いお盆がやってきた。この時期には会食をしたりお墓参りする方もあると思うが、由来を紐解けば亡きご先祖へのおかげ様に感謝する日本の伝統行事だ。

「私」が今ここにいるのは、多くのお支えや、誰かのお育てがあったからに他ならない。お馬の赤ちゃんは、生まれたら夕方には立ち上がり草を食むことができるが、人間はおぎゃあと生まれ、取り上げてもらわなければいのちにかかわる。それどころか、何年もの間、誰かのお育てがなければ生きていくことは出来ない。自分の気付かなかったところで、たくさんお世話になっている。ご先祖に限らず、身の回りに目を向ければそういったことは多くありそうだ。

相談員ワークショップも無事開催できたのは皆さんの力。日々のお支えに感謝しつつ、これからもより良いいのちの電話を目指していくことが、おかげ様への一番の恩送りになると信じて活動をしていきたい。

## 事務局日誌

令和6年4月～ 6月

| | | |
|---|---|---|
| 4月 | 4日 | FM791「ナビコレ！？」出演 |
| | 11日 | 黄色いレシート店頭活動 |
| | 16日 | 共同募金分配式 |
| | 18日 | 事務局会議 |
| | 21日 | 黄色いレシートギフト券授与式 |
| 5月 | 11日 | 黄色いレシート店頭活動 |
| | 16日 | 第74回理事会 |
| 6月 | 4日 | キワニス寄付授与式 |
| | 11日 | 黄色いレシート店頭活動 |
| | 18日 | 第55回評議員会(書面会議) |
| | 20日 | 事務局会議 |
| | 22･23日 | 九州･沖縄いのちの電話相談員ワークショップ |

※毎日フリーダイヤル(18:00 ～ 21:00)
※毎月10日 フリーダイヤル(10日8:00 ～翌日8:00まで)


社会福祉法人 熊本いのちの電話
事務局
〒860-8691　熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343


発行人:福田　稠　　編集:広報委員会

熊本いのちの電話　検索


この広報誌は赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。